

戸田康之さん『ネコ』

戸田です。よろしく。

今日お話しするのは、かなり昔、実家で暮らしていた頃に飼っていたネコについてです。

そのネコは今ではもう死んでしまったのですが、私が中学生の頃に飼っていました。結婚前、実家に住んでいた頃で、両親も私も耳が聞こえないデフファミリーの3人家族ですので、家の中はろう文化の生活です。そのネコは耳の聞こえるネコでした。でも、暮らしているのがろう文化の家庭ですから、ネコもろう文化を身につけていたんです。

例えば、聴者の友達が家に来た時のこと、家にいるネコをかわいがってくれたのですが、その友達に珍しいネコだと言われたんです。何が珍しいのかと思ったら、全く鳴かないんだそうです。ふつうは、ネコなら“ニャーニャー”と鳴きますよね。でも、うちのネコは鳴き声を出さないと。私は聞こえないので鳴いているのかどうかは分からなかったのですが、実際鳴かなかったようです。

確かに、うちのネコは鳴き声で人を呼ぶことはしていませんでした。代わりにどうするかというと、ろう文化と同じです。エサが欲しい時や水が欲しい時など、人に何かしてほしい時には、いつも人の太もものあたりを足でさするんです。ろう文化が分かっているんだなあと思いました。

また、視線を合わせることもろう文化では大切なことですよね。聴者は目を合わさずとも会話することができますが、ろう者は視線を合わせずにコミュニケーションすることはできません。うちのネコにもその習慣がついていて、必ずこちらの目を見るんです。

私は当時、2階で寝ていました。ネコも家族もみんな寝るのは2階でした。朝起きるとネコが私の方を見ます。そして一緒に1階まで目を見合わせたまま降りていました。階段を降りると3方向に分かれていて、右に行くと水道があります。うちのネコは水を飲む時にお皿からではなくて水道から直接飲むんです。なので、右に行きたがると水が飲みたいというサインになります。まっすぐ行くとエサ置き場があります。左に行くと玄関なので外に行きたいというサインになります。ネコの要望は行く方向によって3通りあって、目を見合わせながら1階まで降りていくとどっちに行きたいかが分かるんです。

例えば、外に行きたいのかと思って私が身体を左に傾けると、外に出たくない時にはネコは私の目を見たまま全く身動きしません。ならば水が欲しいのかなと思って今度は右に身体を傾けてみます。これもそうでない時にはネコは動きません。じゃあエサかと身体を前方に傾けると、ネコは私の目を見つめたまま一緒に前に歩き出すのです。ネコも視線を合わせてコミュニケーションをしているんですね。

ろう文化の家庭では、飼われているネコまでもろう文化が身につくんだなあ
と思いました。今はもうそのネコは死んでしまったので残念です。